

目指す学校像	児童・教職員・家庭・地域が共に育つ楽しい学校
--------	------------------------

重点目標	1 魅力ある学級経営・学ぶ力をつける授業の創造、生徒指導・道徳教育の充実、人間関係づくり 2 安全・健康教育、安全管理の徹底、健康教育の推進、食育の推進 3 地域とともにある教育活動 4 教職員の研修と協働
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							実施日令和7年2月5日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	各学級17名程度であるため、担任は一人ひとりと向き合う時間も多く、少人数での指導が可能となるため、きめ細やかな指導ができています。 学力の修得・定着と知識の活用で課題があり、各学年における基礎的・基本的な学習内容の定着を図るための指導と授業づくりの研究が必要である。	ICTを活用した学びの改革の推進と、個別最適な学びと協働的な学びの一体化の研究推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年での学習用タブレットの活用と授業アンケートの実施。</li> <li>研究推進委員やエバンジェリスト、外部講師によるICTを活用した授業法の校内研修の実施と自発研修の奨励。</li> <li>学習用タブレットを使えば、どこでも学習できる環境の整備</li> <li>家庭で学習に取り組む具体的な方法を示したガイドの提案。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の端末活用状況調査で「ほぼ毎日使う」の割合70%以上。</li> <li>学校評価で授業に携わる教員の「ICTの効果的な活用」について「おおむね達成」の回答100%。</li> <li>学校評価の児童アンケートにおいて「学校で勉強したことが分かる」の質問において「そう思う」と回答した児童70%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の端末活用状況調査で「ほぼ毎日使う」の回答は56%であった。</li> <li>学校評価で授業に携わる教員の「ICTの効果的な活用」について「おおむね達成」の回答については、100%であった。</li> <li>学校評価における児童評価「学校で勉強したことが分かる」の項目について、「そう思う」の回答は57%であった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの効果的な活用により、子どもたちの主体的な学びを促すことができた。体験的な学びの重要性とのバランスに課題があるため、ねらいに即して児童の学びにつながる効果的なICTの活用について、学校課題研修として進めていく。</li> <li>端末の活用場面を増やし、児童が分かる授業を徹底的に追究していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童用タブレットは持ち帰れるのか。⇒長期休業中や日常的にも必要に応じて持ち帰っている。</li> <li>タブレットを「ほぼ毎日使う」の回答が低いのはなぜか。⇒学年や教科によって使用しないときもあるため。今後活用場面を増やしていく。</li> <li>「学校で勉強したことが分かる」が57%というのは低いと考える。⇒学校としても課題であると捉えている。今後さらに研究を進めていく。</li> <li>課題も見られるため、この評価でよい。</li> <li>定期的にケース会議を開かれている状況もあり、この評価でよい。</li> </ul>
	全校児童103名の小規模校で、全学年単学級の学校であるため、卒業まで同じクラスメイトとのかかわり合いになる。お互いのことを分かり合える半面、一度人間関係が崩れると、その後の学校生活に大きな影響を与える。 また、自学級以外のかかわりは、すべて異学年交流となることから、学年の枠を超えたつながりを造ることができている。 ただ、多様な考えに触れる機会が少なく、一度作られた人間関係からの脱却も困難である。	組織を生かした生徒指導の徹底と教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導委員会の情報を基に、課題予防的生徒指導が必要な児童に対応するための校内(拡大)ケース会議開催</li> <li>教頭、教務担当者と児童や教職員、地域などあらゆる情報を共有するための定期会議の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価「先生に何でも相談できる」の肯定的回答90%以上</li> <li>必要な児童に対して複数回ケース会議の実施</li> <li>円滑な学校経営のための密接な情報共有の体制化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価における児童評価「先生に何でも相談できる」の項目について、肯定的な回答は82%であった。</li> <li>今年度は、4名の児童についてのケース会議を行った。(令和7年1月31日現在：1年児童①3回、1年児童②3回、2年児童2回、4年児童2回の実施)</li> <li>生徒指導委員会にSC、SSW、さわやか相談員の参加、ケース会議の実施等</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、生徒指導委員会やケース会議に専門職(SC、SSW、さわやか相談員)が同席したことで、専門的な知見のもと、児童への支援を多様な方法で行うことができた。ケース会議の実施が遅れるほど支援の効果が表れる時間がかかるため、コンパクトでも迅速に対応できる会議として位置付けていく。</li> </ul>	
2	全校児童が少なく、学区が広域であるため、遠いところでは、40分程度かかる地区もある。そのため、登下校での安全の確保が難しい。特に、低学年と高学年で下校時刻が違う日には、一緒に下校する児童が少なくなる傾向がある。 歯科治療については大幅に改善が見られたが、継続して生活習慣を含めた保健指導を進める必要がある。 地域の農家の方からの協力があり、農業体験等は充実している。	基本的な生活習慣を身に付ける保健指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>業前に月1回保健指導、生活朝会での指導の実施。</li> <li>保健だより等での情報提供による家庭への協力の呼び掛け。</li> <li>年2回の学校保健委員会の実施と、専門の講師による講演や日頃の保健指導についての協議。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価児童アンケート「川小よいこのやくそくを守って生活している」の肯定的回答100%。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価における児童評価「川小よいこのやくそくを守っている」の項目について、肯定的な回答は92%であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣としては、「早寝、早起き、あさごはん」を合言葉に行っているが、「早寝」については一部深夜まで起きている児童もいる。各家庭の事情等も考慮し、児童の観察やスクールダッシュボード等を活用しながら支援していく。</li> <li>地域の特色を生かした食育を進めているが、学習指導要領に示された内容の確実な実施とのバランスを考慮し、教育活動全体を見通したカリキュラム・マネジメントを進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が3列で下校している姿が見られるなど下校の仕方に課題がある。</li> <li>この評価でよい。</li> </ul>
	瑕疵による児童のけが防止の徹底。	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の安全点検の確実な実施と、修繕箇所への迅速な対応。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>瑕疵による児童のけが、事故をゼロにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>瑕疵による児童のけが、事故の件数は0件であった。</li> </ul>	A			
	地場産の食材やヨーロッパ野菜の育成などを取り入れた食育の充実。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨーロッパ野菜の育成を中心とした食育の研究。</li> <li>児童自らが野菜の生育に関わる機会をつくるための学校ファームの有効活用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年生はサツマイモ栽培</li> <li>3～6年生はじゃがいもやヨーロッパ野菜の栽培</li> <li>5年生は米の栽培などを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、計画通り実施できた。</li> </ul>	A			
3	歴史ある学校であり、地域との関係も密である。学校の取組に協力的で、様々なボランティア活動が充実している。 地域の協力者の高齢化が進んでおり、新たな地域人材の確保が課題となっている。	地域や保護者の方から信頼される地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつがよくできる児童の育成と、教育活動が地域活動に反映されるような取組(子どものエージェンシーが発揮される取組)推進のための学校運営協議会での熟議</li> <li>学校の取組を周知するための学校便りや学校WEBページ、学校安心メール、「がくぶり」での情報提供やForms アンケートを活用した地域、保護者からの情報の収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価での地域の方に対するあいさつの項目で「そう思う」の回答を児童75%、保護者92%以上。</li> <li>学校評価の情報発信に関する質問に対し「そう思う」の回答75%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価における児童評価「あいさつ」に関する項目について、「そう思う」の回答は72%であった。保護者評価については90%であった。</li> <li>学校評価における保護者評価「学校からの情報発信」に関する項目について、「そう思う」の回答は69%であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶励行については、児童の実感と保護者の方の評価に差があるため、挨拶励行の指導とともに、できたことをほめる声かけが必要である。学校の教育活動についての情報発信だけでなく、教育活動に参画していただくことを目指した情報も発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下校見守りの放送を受けて、児童はどう感じているのか。地域によっては、いろいろな学校の児童が放送しているようだ。それが地域へのあいさつにもつながるのでは。</li> <li>朝のあいさつについて課題がある。</li> <li>この評価でよい。</li> </ul>
	学校課題研修を中心に、各種研修を計画的に推進することができている。 教職員数が少ないため、一人ひとりが担当する校務分掌が多く、各部の部員も少ないため、充実した取組にすることが困難である。同時に働き方改革の観点からも、取組の精選を図ることも課題である。	教職員が働き甲斐を感じ、士気を高められる教職員集団の形成と業務改善の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の士気を高め、指導力向上を図るための管理職による授業参観、教室訪問、面談の実施。</li> <li>教員の指導力向上を図る情報を提供するための「校長室だより」の発行。</li> <li>「チーム川通」を推進するための教職員同士の連携・支援・協力</li> <li>時間外在校時間縮減のための会議や業務内容の精選と効率化の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア振り返りシートの自己評価について全教員の伸長。</li> <li>教職員評価「働き方改革(業務改善)」に関するアンケート肯定的回答90%以上。</li> <li>全教職員の時間外在校時間を月当たり平均28時間以内。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア振り返りシートの自己評価については、全教職員について年度当初より伸長が見られた。</li> <li>学校評価における教職員評価「働き方改革(業務改善)」の項目について、肯定的回答は80%であった。</li> <li>全教職員の時間外在校時間の月当たりの平均は、31時間19分であった。(令和6年12月31日時点)</li> </ul>	A		